『言語情報学研究報告』No.7（2005）

マレーシア語の動詞連続
―構造と意味関係の視点から―

鵜沢　洋志
（東京外国語大学大学院博士後期課程）

0. はじめに

本稿の目的は，マレーシア語における「動詞連続構造」というものを，形態・統語的な面と，その動詞同士の意味関係という面との二つの観点から分析・総合を図ることである。まず初めに，本稿で扱う「動詞連続」とは何かということについて触れ，その後分析の手法について関係のあると思われるいくつかの概念に関して，本稿での立場を明らかにする。次いで，本論として，マレーシア語における「動詞連続構造」のモデルを示し，そこでの意味関係として，後続動詞の先行動詞に対する働きかけを観察する。そして，統語構造としての動詞連続の生産・拡張性という点について，いわゆる「つなぎ言葉」を表す語との関連で考察を行う。最終的に，マレーシア語の動詞連続構造の簡略的なモデルによる一般化を目指す。それは，他の「修飾」と呼ばれる概念との違いを示すことにもなり，動詞の統語条件としての知見を増やすことにつながり，結果，主に述語の内部構造記述に対しても有用となることが予想される。

1. 動詞連続と諸概念

1-1. 動詞連続とは何か

フンボルトの云うところの「語の孤立」的な性格を有した言語においては，語同士の関係を明示する形態的な指標を持たず，語それ自身が並列されることで，その語序規則や文脈から特定の意味関係を表すという言語形式表現がある。ここでの「動詞連続」とは，その名の示す通り，少なくとも二つ以上の動詞[1]が関与する言語形式構造で，連続的に共起して特定の意味関係を表しながらも，その動詞同士の関係を明示する「つなぎ言葉」の類が用いられていない言語現象を意味する。

次章以降で具体的に観察していく，本稿の対象とするマレーシア語の動詞連続も，同様の構造を持っていると云える。このような言語形式構造は，マレーシア語に限らず，系統を異にした近隣の東南アジアの諸言語にも共通して見られる構造[2]である。本稿では，他言

[1] 以下，品詞に関して言及する場合は，鵜沢（2003）の品詞分類を基に行うこととする。

[2] タイ語や中国語などにおいても見られるものであり，峰岸（2003）では，その構造を「複数の動詞及びその補語が形成する統語構造」とし，分析がなされている。

語との対照ではなく，マレーシア語における動詞連続の形態・統語的特徴や意味的関係を追究していく。

参考として，以下のような例を取り上げておく。

1） ･･･ sebelum ini memang terdapat kira-kira 200 pekerja Indonesia yang enggan
前　これ 確かに 見られる　およそ　労働者　インドネシア　嫌がる
pergi bekerja ･･･.
行く　働く
（これまでは, 働きに行くのをしぶるインドネシア人労働者がおよそ二百人ほど確かに見られた）（Utusan Malaysia Online 2002/01/21）

2） ･･･ beliau **menasihatkan** mereka **menceburi** perniagaan lain ･･･.
その方　忠告する　彼ら　介入する　商業　他の
（その方は，彼らに，他の商業に参入するよう忠告した）
（Utusan Malaysia Online 2002/03/11）

これらの動詞連続構造を記述・分析する際には，いくつかの，方法論における概念上の齟齬が問題として生じるおそれがある。例えば，マレーシア語の実情を考えると，動詞連続のように意味関係を「無標」で表現する以外に,「つなぎ言葉」を用いて意味関係を明示するということもある。そこで，それとの対比で「ゼロ記号」や「省略」という概念を用いることで説明を試みるという立場がある。他には，西欧諸言語を基盤として構築された言語理論，例えば句構造規則などに従って,「一文中には定動詞が一つ含まれる」という前提から，動詞連続を文の連続，即ち「定動詞」の数を文の数と等しく捉え，いくつもの文階層から成り立っている言語現象である[3] という観点からの考察を試みた場合，そこにも通常の視聴覚ではとらえられない，理論上によって「復元」された構造記述というものが存在することになる。これらに関しての本稿の研究視点は，次節以降で述べていくこととして，ここでは最後に，表面上同様の動詞連続と考えられる構造ではあるが，本稿においては考察の対象の「動詞連続」と見なさずに，とり扱わないものの一例を挙げる。

3） Pukul 9 baru dia **memulai bekerja**.
時 そのとき 彼　始める　働く
（九時になって，彼は仕事をし始めた）（Intelek p.262）

4） Katanya Malaysia **mahu melihat** bagaimana euro berjaya ･･･.
言う―彼 マレーシア 望む　見る　どのように ユーロ 成功する
（マレーシアは，どのようにしてユーロが成功するか見てみたいのだと彼は言った）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/11）

[3] 本稿での「階層」とは，主に「埋め込み文」などの文レベルの階層を指し，そこでの問題点は,「定動詞」を中心にした考察法と，理論上の「復元」にあると考えている。

3)，4）の例は，一見構造上は動詞が連続している[4]が，これは，二つの点で本稿の目的にそぐわないと判断し，対象から外すこととする。それは，第一に，後続の動詞が，先行動詞の要する項として働いていると考えられるからである。動詞の項が名詞類でなければならないのは，英文法をはじめとした他言語における文法規則であり，鵜沢（2003）によれば，マレーシア語においては，動詞も主語等の要素となりうるということを考慮すると，動詞の要する項ともなりうると考えるのは妥当であると云える。第二に，これと同類と判断できる動詞（例えば，cuba, mula, hendak など）がとる後続動詞との意味関係は，常に，後続の動詞を項のようにとらえたならばその内容を示す，後続の動詞を中心に考えれば先行動詞はそれに新たな意味合いを補助するというような一般化が既にできうるからである。本稿で扱う「動詞連続」は，先の規定通り，項構造とも単純な修飾とも異なる「特定の意味関係」を表しうるものである。

だが，それは，上述の動詞の構造が些末な問題であるということを意味しているわけではない。このような動詞を準動詞，助動詞として考察を行った研究に，正保（1997），正保（2004）などが挙げられる。これらの動詞の統語構造に関しては，以下に挙げる文例との関係において，重要な問題があると考え，今後の研究課題とする。

5）　･･･ tetapi **mahu** ketua jabatan **menandatanganinya** terlebih dahulu ･･･.
　　しかし　望む　長　事務局　署名する―それ　一番　先に
（だが，もっと前に事務局長に，それにサインしていただきたかった）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/03）

文例 4）と 5）とでは，動詞 mahu の後続要素に違いがある。即ち，5）においては，後続動詞の動作主が mahu の直後に現れているのである。この場合においても，階層性の問題は議論の対象となるが，このように mahu の動作主と後続動詞の動作主が異なる構文で，後続動詞の動作主が主語となり，先行動詞が人称形と呼ばれる動詞形態[5]をとるときに，構造と意味関係における興味深い問題が生ずる[6]。そのような観点も含め，先の課題とする。

1-2. ゼロ記号と省略

本稿における記号とは，音形を持つ言語形式のみを指し，その言語形式の連続における構造・意味関係を見ていくものとする。一方，ゼロ記号は，実質的な音形を伴わないものである。ゼロ記号とは，ソシュールの記号理論から産出されたものと思われる。以下に，丸山（1981）からの引用[7]を記す。

---

[4] 私見では，memulai や mula, cuba は動詞であるが，mahu や hendak は，文語におけるその働きからすると，比較的叙述詞の機能に近いような感を禁じえない。

[5] 人称形とは，客体を主語とする，客体焦点型の構文などに用いられる動詞で，「人称代名詞＋接頭辞のない動詞」によって表されるものである。動詞の形態的分類では，他に主体焦点型と考えられる meN 型動詞などもある。

[6] この問題を扱った先行研究として，正保（2004）などが挙げられる。

[7] 丸山（1981）p.135

「シーニュは必ずしも実質の次元に顕現される必要はなく,物理的にはゼロでもよいことがわかる。ただし，このゼロが，何かと対立する限りにおいて。換言すれば実質におけるゼロはゼロに過ぎないが，これが形相において，意味を担うゼロと，意味を担わないゼロとの二種に認識されるということである。」

この記号理論を端緒に,「ゼロ代名詞」や「ゼロ補文子」などの説明上の原理が用いられるようになったと云えるのであろうが，ここで注意すべきは，ソシュールの指したゼロ記号の定義を誤認しないようにすることである。ソシュールが,「対立」や「差異」を言語記号というものの重要な特徴としたように，ゼロ記号とは，本来，音形を持つ記号との対立，即ちシニフィアンとシニフィエにおいて対立し，差異があることで成立するものである。換言すれば，音形を持つ言語記号と音形を持たない「ゼロ」とが，差異を生まないようであれば，それはゼロ記号ではなく，ただの「無」であると云える。対立も差異もない「無」を言語記号と考えて説明原理とすることは，方法論上問題がある。よって本稿での動詞連続の考察においては，音形を持つ言語形式のみを考察の対象とし，そこにのみ説明の原理を求めていく。

いわゆる「省略」と呼ばれる現象説明に関しても，同様の問題が指摘できる。ある言語形式が「省略」されているというのは，その言語形式が，ソシュールの云う「連辞関係」「連合関係」のいずれにおいて，且つ「文脈」などにおいて，ある一つの言語形式と対応するもので，本来必要とされている場合，それが言表されていないことを表していると考えられる。その場合,「省略」がただの説明原理で終わっては，なぜ省略しているのか，省略している場合としていない場合では差異がないのかという問題に対し,何の解答も与えず,仮説を進めるための「規則のための規則」になってしまう。また，そのような，復元可能な対応する言語形式があるかは,研究者の視点からのみ断定できるものではないと云える。以上のことより，これを説明の原理として用いることは，妥当な方法ではないと考える。同様の指摘は，日本語研究の例などを交え，吉田（2002）にある[8]。多くの研究において，実際は，このような方法論上の不備を無視して理論が先行しているが，本稿では,「省略」を説明の原理とはせず，そこには言表として何も存在していない，即ち「不在」であると考える。

ここまでで述べたように，本稿においての考察の対象となるものは，音形を持った言語形式のみであり，通常の視聴覚を用いて認識できない言語形式は，考察の方法論上，認めないものとする。よって，動詞連続と「つなぎ言葉」として接置詞を伴う場合との比較は,「省略」でも「ゼロ補文子」でもない別構造と考え，生産・拡張性という観点から，言語形式構造の違いとしての両者の差異を含め，後の章で論じていくつもりである[9]。

---

[8] 吉田（2002） pp. 17-30

[9] 接置詞を伴う場合と動詞連続という構造をとる場合とは，無関係とは云わないがイコールであるとも云えない。基本的には，明示していればより意味関係が明確だが，非明示でも統語的に問題は生じないと考える。

1-3. 線条性と階層性

言語が,時空間における位置付けとして,線条的な性質のものであるとソシュールによって説かれて久しいが，現在用いられている文法理論の少なからぬものにおいて，階層的な文法記述が中心となっていると云える。それは，先にも触れた通り，西欧諸言語に見られる「一文中には一つ定動詞が存在する」というような，峰岸（2002）で云うところの「定動詞公理」に基づいた分析に端を求めることができよう。

だが，説明の原理として，即ち，文法記述に対する正当性だけを理由にするとしても，そのような複雑な階層構造は，言語話者の心理的実在性のなさにより，直観にそぐわない感を与えるどころか，構造分析自体をも煩雑化しえない状況を招いている。さらに，どの言語においても動詞を中心とした構造把握が一般化すべき方法であるとは考えられない。マレーシア語では，動詞を用いない文が考えられる以上,「定動詞」を中心に文を規定することはできない。

加えて，記号理論の延長として，言語運用まで考慮に入れると，線条的に並ぶ記号列を「埋め込み型」で処理するよりも,「一次元並列型」で処理する方が，記憶に対するコストが低いと考えられる。確かに,「二重分節性」などを始めとした言語の階層観は否めないが,統語構造分析においては，理論を先行させてしまうことで，無限階層のように歯止めが効かなくなるおそれがある。経済性の原理や言語運用も視野に入れれば，分析において階層を認めるとしても，その規定にはより慎重になるべきである。

このような視点より，本稿での動詞連続の分析には，特定の言語理論に依存した「埋め込み型」の文法記述を踏襲するのではなく，線条的に流れる話線を基にした現象把握・分析を基本とし，一次元的な並列処理に適う文法記述を目指していく。しかし，このことは,言語が文法レベルにおいて，階層を一切持たないということを積極的に述べるものではないことに，注意を払っておきたい。

動詞が要する項構造と「島」の概念[10]において，等価な文の連続とは考えられない例がある。具体的には，以下に見るような言語現象で，本稿ではこのような構造を動詞連続として扱わない。

6） Datuk Omar **memberitahu** proses penyiasatan **berjalan** dengan baik ･･･.
（称号） 人名　伝える　経過　調査　行う　うまく
（オマル氏は，調査経過が順調であると伝えた）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/15）

例文 6）においては，一見すると先行動詞が項を挟み，後続動詞と連続している構造であり，動詞連続と思われるかもしれないが，動詞 memberitahu が後ろに要する項は，伝える相手か，伝える内容，あるいはその両方であるということを考えると，この場合，proses

[10] 管見の限りでは，初出は Ross（1985）における'Island'となるが，ここでは制約に関しての説明でなく，ひとまとまりの単位として文中で機能するという観点からの説明原理として用いる。

から baik までが全体としてまとまりのある「島」を成しており，名詞句のみを従える場合の動詞の項構造と差異はないものだと判断できる。さらには，memberitahu が内容をひとまとめの項とするために，接置詞 bahawa を用いることがあるという点も，それを裏付けていると云える。よって，このような例は，本稿の動詞連続においては扱わないこととする。「階層性」の問題としては，ここに見られる「島」と呼んだまとまりある形式が，先行動詞の項となっている以上，等価な文の羅列とは考えにくいということがある。

上のような構造をもってして，階層的な構造であるとするのは，一理あるかもしれない。なぜなら，これが「一文」という単位で区切られたものであり，そこにおいて，内部に別の「一文」を備えているが，それらは共に等価に「一文」であると表現しては，説明上の自己矛盾に陥ってしまうからである。この観点からすれば，そこに「階層性」を認めざるをえなくなるかもしれないが，それは「文」というものの定義に起因する問題でもあるので，本稿の目的の本流から外れる大きな問題であるため，ここで一概に結論は出せない。だが，「階層性」を妥当だと判断するにせよ否定するにせよ，実際の言語運用をまるで考慮しなければ，無限階層の如く，理論のための理論だけに終止した結論を産みかねない。方法論的な観点からしても，言語記号としての本質を見誤らずに，注意深く検討すべきであると考えている。

本稿での立場は，言語の線条性に重きを置き，動詞連続を多階層から成る言語形式と分析していくことはしない。それと同時に，上記文例のような「島」の概念に関しては，項構造との比較で立てた概念ではあるが，それさえも上に述べたような西欧諸言語の言語理論で見るような「階層」的なものと同一であると無条件に認められるとは考えていない。階層を認めて分析を行うにしても，「何をもって文とするか」という点，そしてそれらの階層の限界を射程に収めた方法が必要になってくると考えているからである。

接置詞による明示化された「有標」である項はもちろんのこと，何も介在しない「無」の場合においても，理解可能となる，線条的に並べられた音形を持つ記号の序列が，記号としての機能を発揮しているに過ぎないと考える[11]。つまり，並列的に言表された記号形式こそが，考察の対象とすべきであり，そこでの形態・意味における関係をそれぞれ研究していく。

2. 動詞連続の考察

2-1. 構造上の規定の観察

本稿における動詞連続は，分析の都合上，最小モデルである動詞二つの連続関係を見ていくこととする。先の章での概念規定に合わせ，本稿での動詞連続を形式として表すと，次のようなものとして表すことができる。

[11] デ・マウロ（1976: p. 171）の見解を，英語における関係代名詞としてのゼロ記号，即ち「無体の統辞法」に関して，一部ここに引用する。「現実には，素材単位が，一定の順序に線形化されて，それだけでこの価値を創りだしている。」この見解は，本稿における立場と同一方向のものであると考えられる。

model1　V + V　　model2　V + Arg. + V[12]

但し，一見 model2 のような構造をしたものであっても，先行動詞の項などの関係もあり，本稿の対象にあてはまらないものもあることは，前章で述べた通りである。また，model1 においても，動詞と動詞との連続の間に，場所や方向性などを示す，随意的な接置詞句があることがあるが，それらは考察の対象内とする。

先行研究としては，Md. Isa（1993）の FK kompleks に関する記述がある。そこでは，動詞連続は，階層的な「複文構造」として「復元」され，いわゆる埋め込み文として主文に対する補文と解釈され，「枝分かれ図」によって示されている。本稿では，前章の 3 節で述べたように，動詞連続の分析に対し，そのような「階層」的な位置付けを与えずに記述・分析していく。さらに，そこでは，マレーシア語において，そのような構造をとる動詞は自動詞のみである[13]とあり，おそらくは正保（1996）などで扱う補文構造は別扱いしているのであろうが，本稿では，先の概念規定を踏まえ，それらも含めて考察をすすめていく。

ここでは，どのようなものを動詞連続の対象と見なすか，動詞の形態や統語構造から観察していく。まずは，以下の文例を見てみる。

7）・・・ kita tahu ada rakyat negara ini yang **pergi berlatih** di Pakistan ・・・.
　我々 知る いる 国民　国　これ　行く　訓練する ～で パキスタン
（我々は，パキスタンで訓練するために行くこの国の国民がいることも知っている）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/29）

8）・・・ orang ramai berani **keluar mengundi**.
　人　一般　勇敢だ 外出する　投票する
（大衆が勇敢に投票しに外出する）　（Utusan Malaysia Online 2002/01/19）

上の文例は共に，先行動詞が別の項を義務的に要求しない model1 の構造である。動詞同士が何の随意的な付属要素も介さずに連続している。先述の Md. Isa（1993）や Pitsamai（1987）では，動詞の間，即ち後続動詞の前に，同一主語を「復元」させて構造分析を行っている[14]が，本稿では，そのような分析はとらず，動詞がただ連続することで，統語的にも容認され，意味関係を産みだしていると考える。次の例は，随意的な付属要素を介在させたものである。

9）・・・ nak menceroboh, **masuk** ke sini **cari** kerja," katanya.
　望む 不法侵入する　入る　～へ　ここ　探す　仕事　言う―彼
（不法に侵入し，仕事を探しにここへ入りたがっている，と彼は言った）

---

[12] V は動詞，Arg.は動詞が義務的に要する項を表す。

[13] 原文引用：「Dalam bahasa Melayu , kata kerjaan (KJ) yang boleh diikuti oleh komplemen ini ialah kata kerja intransitif sahaja.」同書 p. 83

[14] struktur dalaman（深層構造）として，後ろの主語を「復元」させた文を基に分析しているが，それが現実の文としてはおそらく非文になるという点を考えても，妥当な方法だとは思えない。

（Utusan Malaysia Online 2002/01/26）

この例のように，間に随意的な要素をさし挟む動詞連続構造もある。このような接置詞によって導かれた修飾要素は，これから見るような先行動詞が義務的に必要とする項とは，一線を画して記述すべきであろう[15]。

では，先行動詞が別の項を要し，それに動詞が後続するタイプ，model2 の文例について見ていく。このタイプにおいては，前章で述べたように，全てがその対象となるわけではなく，後ろが「島」となるようなまとまりのある項となるものを考察対象から外す。

10） ･･･ Idris **memberitahu** penunggang remaja itu akan **didakwa** ･･･.
人名　伝える　運転手　若者　それ（未）訴えられる
（イドゥリスは，その若い運転手が訴えられるということを伝えた）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/15）

11） Keadaan ini **menyebabkan** kami benar-benar **berada** dalam kesusahan.
状態　これ　原因となる　我々　本当に　いる　中　困難
（この状況が原因で，我々は本当に困難に見舞われてしまっている）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/24）

12） ･･･ **menasihatkan** para jemaah yang mahu menunaikan haji **pergi** melalui
忠告する　達　巡礼者　望む　達成する　巡礼　行く　通る
Tabung Haji ･･･.
固有名詞
（巡礼を達成したいと望む巡礼者たちに，Tabung Haji を通って行くよう忠告した）
（Utusan Malaysia Online 2002/03/02）

文例 10）における先行の動詞 memberitahu は，先にも述べた通り，後ろに伝達相手，あるいは伝達内容，もしくはその両方を項として必要とする。このような動詞は，後続の節がひとまとまりで「島」を形成していると考えられ，本稿では，動詞連続における意味の関係性を追究していく対象としない。例 11）は，それと一見同様の例であるように考えられるが，動詞 menyebabkan は，後ろに単体の項をとらないという違いがある。即ち，例 10）の動詞 memberitahu は，接置詞 bahawa との関係から考えても，後ろをひとまとめの項と捉えることが可能なのに対し，例 11）の動詞 menyebabkan は，後ろの項として，「ＡがＢする（される）」という内容を持つ言語形式として，どのような接置詞を用いても，一つにまとめることはできないと考えられる[16]。だが，動詞が要求する意味内容として，文例 11）

[15] 私見となるが，そこには二つの課題が残されていると考えられる。一つは，動詞が要する項が，どこまで厳密に規定できるかという問題，もう一つは，接置詞句はいずれにおいても付属要素として扱うべきかという問題である。マレーシア語の言語現象に見合うよう，今後の文法記述の課題としておく。

[16] さらに云えば，memberitahu の後ろには berita（ニュース）などの名詞単体が来うるが，menyebabkan の場合は，そのような用例がほとんど見受けられないと考えられる。

は kami だけでは不十分で，いわゆる節のような形を要求し，形成されている点を踏まえると，これも「島」の一種であると判断し，本研究対象から外れることになる。

一方，文例 12）では，やや様相は異なる。なぜなら，動詞 menasihatkan は，後ろに忠告相手が来ることが基本的な構造である[17]と考えられ，後続動詞は，接置詞 supaya などを伴って表すことができるからである。それは，後ろ全体を「島」となった節と考える先の文例との違いである[18]。このようなタイプは，本研究では動詞連続の対象として扱っていく範囲内に収まるものである。同様の種類と考えられる文例を以下に挙げる。

13） ･･･ pasukan polis **mengarahkan** 16 lelaki terbabit **masuk** ke dalam trak ･･･.
隊　警察　命じる　男　関係ある　入る　～へ　中　トラック
（警察は，関係者である 16 人の男性に，トラックの中へ入るよう命じた）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/18）

14） ･･･ dan **mendesak** anggota-anggota tentera itu **pulang**.
そして　勧告する　隊員　軍隊　それ　帰る
（そして，その軍隊隊員に帰るよう促した）　（Utusan Malaysia Online 2002/01/17）

上記の文例は，12）と同様，先行動詞が，基本的に後ろに伝達すべき相手を要するものだと考えられる。よって，これらを本研究対象とすることに異論はない。上の文例の後続動詞も，それぞれ接置詞を伴って表現することが可能である。

一方，後ろに項を必要とする動詞であっても，それを動詞連続の後に置くようなタイプも存在する。次の文例が，それに相当する。

15） Polis **menembak mati** tiga anggota ‘Kumpulan Perompak 13’ ･･･.
警察　撃つ　死ぬ　3　隊員　集団　窃盗
（警察は，‘窃盗団 13’の 3 人の構成員を射殺した）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/02）

文例 15）における先行動詞 menembak は，後ろに客体，即ちここでは行為の対象を必要とするが，それが mati との動詞連続の後に来ている。このような例は，おそらく動詞の持つ意味関係が強く，一つの「複合語」のような働きを成していると考えられる。しかし，それであっても，本稿においては動詞連続の一つであると考える。

ここまでは主に，先行動詞が語根のままか，あるいは meN 型のものを例として扱ってきたが，人称形の動詞に関しても触れておく必要があろう。以下の文例を見てみる。

---

[17] ここで「基本的」としたのは，経験的な観測によるマジョリティの問題であって，実際には要する項構造に，「揺れ」というか，厳密に規定しきれないようなものがある。後の章で，若干論じていく。注 28 も参照。

[18] 実際は，直後に「supaya＋節」が続くこともあり，揺れがある。先行研究としては，正保（1994），（1996）。

16） ･･･, majikan **dibenarkan mengambil** pekerja asing dari lapan negara lain ･･･.
経営者　許される　採る　労働者 外国 ～から 8　国　他の
（経営者は，他の八カ国から外国人労働者を雇うことが許可された）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/28）

17） Azlinda pula **didapati** telah **tinggal** di AS melebihi tempoh yang
人名　一方　判明する（完）　住む ～で 米国 超える　期間
dibenarkan ･･･.
許可される
（一方アズリンダは，許可期間を超過してアメリカに住んでいたことが判明した）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/09）

18） Seorang wanita rakyat Indonesia **ditemui mati** ･･･.
一人　女性　国民 インドネシア 発見される 死ぬ
（インドネシア国民である女性が死体で発見された）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/20）

文例 16）では，動詞 dibenarkan は，meN 型の動詞と対比させて考えると，動詞連続の対象とすべきであると考えられる。基本的に，動詞 membenarkan は，客体となる相手を直後に置き，その動作を表す動詞をさらに後続させる構造をとる。その際，接置詞が動詞につくことがあるという点を考慮すると，文例 12）などと同様の構造であると考えられる。

一方それに対し，例 17）の先行動詞 didapati は，動詞 memberitahu と同様，後ろの項には単体の項を要することもできるし，接置詞 bahawa を伴って「島」を形成することもある。それらを踏まえると，本稿での動詞連続の対象外となると云える。この種類の動詞は，人称形をとる際に，「島」を越えて上の文例のような「挿入型」の構造をとるだけでなく，そのまま後続の節を従えるような構造もとりうる。以下にその例を挙げる。

19） ･･･, **didapati ada** seorang bayi lelaki di dalam bot berkenaan, ･･･.
判明する いる　一人　赤子　男　～で 中　ﾎﾞｰﾄ　当該の
（そのボートの中に男の子の赤ちゃんがいることが判明した）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/18）

上のような構造をとる動詞もある一方で，文例 18）のタイプは，それとは異なるものであると云える。まず，文例 19）のような形をとらないという点が挙げられる。それは，meN 型の場合を視野に入れると見えてくる構造の違いである。動詞 menemui は，後ろに客体のみを従え，動詞などはとらないと考えられるからである。だが，例 18）のように，人称形の際には，本稿で扱うべき動詞連続構造をとっていると云える。このような文例の構造は，いわゆる「受動変形」などを考察の方法とする研究においても，興味深い問題となるであろう。

これまで見てきたように，動詞連続には，動詞そのものの形態的・統語的特徴が関与し

ながら，model1 と model2 の二種があることが認められた。次節では，それらの連続の意味するところ，即ち，明示されていない意味関係に焦点をあて，類型化を試みていくことにする。

2-2. 意味関係の観察

マレーシア語に関する研究の中で，動詞連続，とりわけその意味関係に着目したものは，管見の限り，あまりないと云える。先にも挙げた Pitsamai（1987）などでは，意味関係に関しては，つなぎ言葉の「省略」とそれを可能にする「変形規則」によって，構造を「復元」することで説明をしているものもあるが，本稿の考察の方法とは異なるため，それを受容し利用することはできない。ここでの参考としては，フンボルトの言語類型において同様の語の孤立性を持つ言語である，中国語の研究の一つから，意味関係を見てみる。

Tai（1985）では，中国語の動詞連続を含めた語順に関して，時系列規則（the Principle of Temporal Sequence[19]）に従うとされている。即ち，時間軸に沿って，先に起こる（もしくは前提として必要となる）事項を示す動詞などが常に先行するということである。これは，線条的な言語運用において，解釈に対する負担を軽減することもできるという点で，合理的な構造であると考えられる。そして，当面の問題である動詞連続の意味関係として，「同時性」や「連続性」，「結果性」，「目的性」などを取り上げている。

では，マレーシア語においても同様に，語順が時系列に沿う傾向はあるのかという疑問が生じる。経験的な観察を基にしてみると，中国語の研究同様に時系列規則で語順を一義的に扱い，意味関係をまとめることは，できないと云える。そう考えると，本稿で動詞連続の意味関係を見ていく意義が十分にあると感じられる。つまり，統語的構造を十分に把握するためにも，意味関係をきちんと踏まえた上で理解しなければ，運用に対しても十分な知見とはならないからである。加えて，ここでの動詞連続の意味関係とは，マレーシア語の修飾構造を踏まえ，先行動詞に対しての，後続動詞の意味的な働きかけを見ていくものとする。

以下に，動詞連続の具体例を見ていくが，先に model2 の例から扱っていくことにする。私見となるが，model2 の方が，意味関係におけるバラエティは少ないと考えられるからである。まずはそれに関する例を挙げる。

20） ･･･ Menteri Kewangan **mengarahkan** saya **berbuat** demikian.
省庁　財政　命じる　私　する　そのように
（財務省が私にそうしろと命じる）　（Utusan Malaysia Online 2002/03/19）

21） Beliau **menasihatkan** pendatang tanpa izin **mengambil** tawaran berkenaan
その方　忠告する　来訪者　～なし 許可　とる　申し出　当該の

[19] 原文引用：「the relative word order between two syntactic units is determined by the temporal order of the states which they represent in the conceptual world.」p. 50

segera ･･･.
すぐ
（その方は，許可なく来ている者にすぐその申請をするよう忠告した）
（Utusan Malaysia Online 2002/03/22）

22） ･･･ Washington akan **memaksa** Israel **menghentikan** serangan ･･･.
ワシントン（未） 強いる イスラエル 中止する 攻撃
（ワシントンは，イスラエルに攻撃を中止するよう強制するであろう）
（Utusan Malaysia Online 2002/05/13）

23） Semalam kesatuan perguruan **mendesak** Siva **memohon** maaf ･･･.
昨日 連盟 教員 勧告する 人名 乞う 許し
（昨日，教員連盟側は，シヴァに許しを乞うよう申し出ることを促した）
（Utusan Malaysia Online 2002/03/24）

上に挙げた文例は，いずれも二つの動詞の間に項が介在している model2 であると云える。この項は，動詞の直後の位置を占めることで，先行動詞の要する項として働いていると考えられる。後続の動詞は，その項をあたかも主語とした「節」を形成するかのように見える。だが，これらの文例の先行動詞が「節」をとるという分析よりは，接置詞との兼ね合いも考慮に入れ，内容としての動作を表す動詞句をもう一つの項としてとっていると考える方が妥当かもしれない。つまり，先行動詞が二つの項を要すると捉えるような見方である[20]。そう考えると，説明がつけやすい統語現象もある。それは，動詞の要する項と接置詞とに関係するものであるが，当面の問題と離れることとなるので，それに関しての言及は，次節に見送ることとする。

上の文例は，しかしながら，動詞のとる基本的な項と「島」という概念から見ても，一応は動詞連続の形式をとっていると考えられる。峰岸（2003）にある，孤立語の動詞連続の形式モデル[21]とも，表面上は一致していると云える。だが，同モデルの定式化は，連鎖する述語（Predicate）が等価である趣が見られてしまうのに対し，実際の上記マレーシア語の文例では，後続動詞はテンスを示す叙述詞を入れることができないという点があるなど，等価な述語と見るにはそぐわない部分がある。

本論に戻し，上に挙げた文例の意味関係を見ていく。一つ一つの動詞の意味は，それぞれ異なるので，細かい分類を立てようと思えば，動詞の数と同じだけ存在すると云えなくもない。それでは一般化とは云えないのは，自明の理である以上，ここでは，先行動詞の「内容」というまとめをして，一つに括ることにする。上記文例の先行動詞は，いずれも相手に別の動作を促す指示的な意味を持つ語であると云え，その動作の「内容」を示すのが

[20] 但し，それを主張するためには，接置詞がつく場合も同様であると云えるか，即ち，接置詞句を動詞の要する一要素とすることが妥当であるかという問題を抜きにしては語れない。これは文型にも絡む問題であり，この場で答えを出すには，大きすぎる問題であると加えておく。

[21] 峰岸（2003）では，「孤立語の鎖状統語構造モデル」として形式化されており，「命題の連続を一般的な意味表記」とした構造が記述されているが，具体的な動詞相互の意味関係にはあまり触れられていない。

後続動詞であるとまとめられる。

同様の文例は他にもあるので，以下に挙げる。

24） ･･･ sebelum ini tidak **membenarkan** wanita **bertanding** pada pilihan raya
前　これ（否）　許可する　女性　競争する　～に　選挙　大きい
umum.
公共の
（これまでは，公の総選挙で女性が立候補し競うことは許可していなかった）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/28）

25） ･･･ mereka boleh **membantu** polis **menjalankan** siasatan ･･･.
彼ら　できる　助ける　警察　行う　調査
（彼らは警察が調査を行うのを手伝うことができる）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/10）

26） Undang-undang yang **menghalang** sesuatu jenayah **dilakukan**.
法律　妨げる　ある　犯罪　行われる
（法律とは，ある犯罪が行われるのを未然に防ぐものである）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/25）

上の三例は，いずれも文例 20）と同様の類であると考えられる。それぞれ介在しうる接置詞は異なるという点はあるが，どれも二つの項として見なすことができるかもしれない。事実，文例 25）などは，間に polis のような項を挟まずに用いられる場合もある以上，項関係の延長にあると捉えるのが妥当なように見える。

上の語類においては，先にも述べたように，人称形の場合も同様に動詞連続となると考えられる。以下に例を挙げてみる。

27） ･･･ mereka tidak **dibenarkan keluar** dari kawasan asrama ･･･.
彼ら　（否）　許可される　外出する　～から　地域　宿舎
（彼らは宿舎の周りの区域から外に出ることを許可されない）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/18）

動詞 dibenarkan は，後続の動詞をその「内容」として持つという，動詞連続の構造をとっている。即ち，meN 型の動詞と同様の動詞連続であると考えられる[22]。これとは別に，meN 型では動詞連続構造をとらないが，人称形の動詞の場合においてだけ動詞連続構造をとるものもある。以下に文例を見てみる。

[22] しかし，本来的には，文例 27），28），29），30）及び 31）は，動詞連続の間に項を挟んでいないという点から，model1 であると云える。ここでは，論述の順序として説明の簡便さを優先させ，meN 型の model2 との関係において解説を試みているだけである。

28） Seorang bayi berusia 10 bulan **ditemui mati** ･･･.
一人　赤子 年齢である　月　発見される 死ぬ
（10 ヶ月の赤ん坊が，死体で発見された）　（Utusan Malaysia Online 2002/01/18）

29） Kanak-kanak itu **ditemui terbaring** dengan berlumuran darah ･･･.
子供達　それ 発見される 倒れている ～で 流している　血
（その子供達は，血を流して倒れているところを発見された）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/17）

上の先行動詞 ditemui は後ろに動詞を続けさせているが，それに対応するような meN 型の動詞構造はない。ここでの動詞連続の意味関係は，「状態」を表していると云える。正確には，先行動詞に至った際の主語の状態である。ここでの先行動詞のようなタイプは稀な方ではあるが，確かに動詞連続の一端を担っている。

次の例は，先にも例として出した，先行動詞のとるべき項が，後続動詞の後ろに来る場合の例である。この際の後続要素は，たとえ項を後ろに義務的に必要としないようなものでも良いと見られる。

30） ･･･ malam tadi berjaya **menembak mati** seekor harimau belang betina ･･･.
夜　さっき 成功する　撃つ　死ぬ　一匹　虎　縞　雌
（昨晩，一匹の雌の虎を撃ち殺すのに成功した）
（Utusan Malaysia Online 2002/07/20）

31） ･･･ kedua-dua anggota kumpulan itu kemudian **ditembak mati** oleh polis.
両方　隊員　集団　それ その後　撃たれる　死ぬ ～より 警察
（その団体員二名は，その後，警察により射殺された）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/09）

文例 30）では，先行動詞である menembak は，本来後ろに客体となる行為対象を必要とするが，それを表す項が後続動詞 mati の後に来ている。このような例は，動詞の意味的な関係が密接である，即ち，「撃つ」ことで当然「死んだ」ということを連続性のあるものと捉え，「複合語」のような密接さで連続を成していると考えられる。それを人称形で表現した 31）においても，ditembak と mati の結束は，間に oleh polis を介在させられないくらいに強いものと考えられる。本論に戻すと，ここでの動詞の意味関係は，「結果」であると云える。現実世界における因果関係を考えれば，「同時性」という解釈もありうるかもしれないが，行為自体は別のものであることを考えると，「結果」とする方が妥当であろう。

意味関係の「同一性」に関しては，次のような文例が相当すると思われる。

32） ･･･ adalah **menghantar** semua pekerja terbabit **pulang** ke Indonesia ･･･.
～である　送る　全ての 労働者　関係ある　帰る　～へ インドネシア
（全ての関係した労働者をインドネシアへ送り帰すことである）

（Utusan Malaysia Online 2002/01/21）

上の先行動詞 menghantar の動作内容は，後続動詞 pulang の行為と一体となっていると考えられる。つまり，「送る」ということが，客体の立場からすると「帰る」行為になるという点で，「同一性」のものであると云える。このような動詞連続の意味関係は，この後で見ていく model1 においても見られるものである。

ここからは，model1，即ち，動詞同士の間に，先行動詞が要するような項を介入させないものについて見ていく。まずは，上記の「同一性」に関しての例を挙げる。

33） ･･･ Mohd. Saiful berkata, dia **berlari menuju** ke rumah jiran ･･･.
人名　言う　彼　走る　向かう ～へ　家　近所
（サイフル氏が言うには，彼は近所の家へと走って向かった）
（Utusan Malaysia Online 2002/11/21）

34） ･･･ sebelum **berlepas pulang** ke Kuala Lumpur, hari ini.
前　出発する　帰る　～へ クアラルンプール 日 これ
（今日，クアラルンプールへ出発し，帰る前に）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/21）

ここでの先行動詞と後続動詞の意味関係は，先の文例 32）と同様，「同一性」であると考えられる。文例 33）では，「走る」ことと「向かう」ことは不可分な関係であり，行為そのものとして同一であると考えられるからである。一方，34）では，「出発する」ことが，「帰る」という行為に直接的につながっていると考えられ，同一行為であると見なせる。ここでの特徴としては，「同一性」であると同時に，語順は時系列に沿った行為順となっている[23]ということも指摘できる。

同様に，時系列に沿ったものではあるが，上のものとは別タイプの意味関係を示す文例もある。以下にその例を挙げる。

35） Polis yang **memecah masuk** ke bilik itu berjaya menembak lelaki terbabit ･･･.
警察　散らばる　入る　～へ 部屋 それ 成功する 撃つ　男　関係ある
（その部屋へバラバラになって突入した警察は，その男を撃つのに成功した）
（Utusan Malaysia Online 2002/05/08）

36） ･･･ bahan letupan tersebut telah **dibawa masuk** ke negara ini ･･･.
物質　爆発　上記の　（完）運ばれる　入る　～へ　国　これ
（上記の爆発物がこの国に運び込まれた）　（Utusan Malaysia Online 2002/01/16）

[23] 文例 33）に対しては，「向かう」意志が先にあるから「走る」という行為を行うと捉えれば，時系列の語順とは云えないが，時系列に動機づけられる語序というものは，後に見るように，絶対的な規則とは考えられない以上，暫定的に本文に示されたように，「走って」「向かう」という解釈をとるものとする。

文例 35）においては，先行動詞 memecah になった後，後続動詞 masuk の行為に至ると考えられ，行為として一つの動作であるとは考えがたい。また，36）の例においても同様で，先行動詞 dibawa の状態で，後続動詞 masuk の行為を行うと解釈でき，それは同時に起こっている[24]とは云えるが，同じ行為とは考えられない。ここでの特徴としては，時系列に沿っているという点だけでなく，二つの行為が同時に起こっている様相を示すということから，「同時性」の意味関係にあると云える。但し，細かく見れば，先行動詞の起動から後続動詞への連続的な行為とも考えられることは指摘しておく。

次に，語の示す行為自体からすると，時系列に沿った序列と考えられるが，その解釈として，時間軸に合わせた「連続性」（結果の含意を問わない）として先行動詞から解釈するか，そうでないものかという曖昧さがある文例を見ていく。

37） Cikgu Rahim **pergi** ke Kemboja **kahwin** orang sana secara sah ･･･.
先生　人名　行く ～へ カンボジア 結婚する 人 向こう ～に 正式
（ラヒム先生は，向こうの人と正式に結婚するため，カンボジアへ行った）
（Utusan Malaysia Online 2002/05/30）

38） Bila ada masa kita cepat-cepat **pergi bayar** saman ･･･.
～とき ある 時間 我々　早く　行く　払う　罰金
（時間があるときに，我々は急いで罰金を払いに行く）
（Utusan Malaysia Online 2002/05/05）

39） ･･･ setiap rakyat asing yang **datang mencari** makan di negara ini mesti
毎　国民 外国の　来る　探す　食べる ～で 国　これ ～すべき
mematuhi dan menghormati undang-undang negara ini.
満たす そして　敬意を払う　法律　国　これ
（この国で生計を立てようと職を探しに来た外国籍の国民は皆，この国の法律を遵守し，それに敬意を払わなければならない）　（Utusan Malaysia Online 2002/01/21）

上の三例に関して，先行動詞と後続動詞の関係を，どちらから解釈するかによって，時系列に沿った「連続性」のある行為か，後続動詞が先行動詞の「目的」となるかに分かれる。そのような解釈の手順だけが観察視点であれば，これに答えを出すことはできないが，このような場合，先行動詞のみにテンスを表す言語形式を付加できるのに対し，後続動詞には付加できないと考えられることから，後者の動詞自体に過去性や結果・完了などを示すことができない以上，連続的な述語として動詞が羅列された構造とは解さず，全て「目的」を示していると判断する。

ここまでは，比較的時系列には沿わない語序を持つ連続構造というものがあるということが例示されていないが，以下の例より，そうでないものがあるということがわかる。つ

[24] 文例 36）の動詞連続を meN 型で考えた場合，membawa masuk となり，先行動詞 membawa の要する項は，後続動詞の後ろに来る。即ち，先の文例 30）と同じ構造となる。すると，先と同様，結びつきの強い「複合語」的な感があると云える。

まり，中国語において，Tai（1985）が示したような厳密なまでの時系列に合わせる規則性というものは，マレーシア語にはないと云える[25]。下に挙げる文例は，そのような，時系列に逆らう動詞連続タイプの一つである。

40） Seorang pemilik dusun durian **mati dipukul** dengan kerusi ･･･.
一人　所有者　農園　ドリアン　死ぬ　殴られる　～で　椅子
（あるドリアン農園の所有者が，椅子で殴られて死亡した）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/14）

41） Dua orang anggota pasukan keselamatan ･･･, **mati dibunuh**.
2　人　隊員　隊　安全　死ぬ　殺される
（レスキュー隊の隊員二名が，殺されて死亡した）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/08）

文例 40），41）は共に，先行動詞 mati に対して，後続動詞が「原因」を表していると考えられる。先に，「結果」として分類した文例 30）や 31）などとは逆の表現であることがわかる。即ち，時系列において先にあるべき行為が，「原因」として後続動詞によって示されているという構造である。文例 31）に対応させるべく，以下の例も挙げておく。

42） Bagaimanapun, abang iparnya, Ismail **mati ditembak** dalam operasi itu.
しかしながら　兄　義理―彼　人名　死ぬ　撃たれる　中　作戦　それ
（しかし，彼の義理の兄であるイスマイルはその作戦中に撃たれて死亡した）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/03）

これらの動詞連続構造では，後続動詞は「原因」となっていると考えられるが，ここに接置詞を用いるような構造は，あまり自然な文例とは云えない。当然，本稿ではそのような説明の原理である「復元」は行わない。つまりは，これはマレーシア語における純粋な動詞連続構造の一つであると考えている。

最後に，後続動詞の意味的な働きかけという観点からは関係が捉えにくいものとして，「並列」に関する文例を挙げる。

43） ･･･ urusan **keluar masuk** di pintu utama asrama itu dikawal ･･･.
事柄　外に出る　入る　～で　ドア　主要な　宿舎　それ　守られる
（その宿舎の主要な入り口で出入りすることは，監視され守られていた）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/18）

[25] Tai（1985）のように，「形容詞」や「副詞句・節」まで含めると，マレーシア語の言語事実より，それは一層明白となる。

対象の動詞連続は，「並列」して結びつくことで，一つの概念を表している。ここでは，後続要素の働きかけという考え方は適切ではないと考えられる。これを時系列という観点から見ると，認識が行為の中心となる場から捉えていると考えれば，時間軸に沿っていると考えられるが，そのような時系列を問うこと自体に何ら特別な効果はないように感じられる。但し，このタイプの動詞連続は，それほど生産性が高いとは考えられない。

Tai（1985）が示す，中国語の語順の規則性は，言語記号の線条性という観点からすれば，言語運用における理解の手助けとなっていると云える。それは，語の孤立性の高い，中国語固有の方法であるかもしれないが，マレーシア語においては，そのような一元的な規則性は成立しないと分析した。それでも，意味解釈における必然性や，次節で見ていく接置詞との共存を考えれば，動詞連続構造の意味関係に見る多様さも，決して複雑なものではないと考えられる。

2-3. 生産・拡張性の観察

ここでは，これまで述べてきた動詞連続の形式と意味解釈の双方における，生産・拡張性について言及していく。つまり，動詞連続構造をとる動詞が一部の限られたものであるかどうか，仮にそうであるならば，その動詞群に類型化しうるタイプはあるのかといった問題が考察点である。また同時に，それに合わせて，接置詞による「有標」で明示的な意味関係表示についても扱う。動詞連続が意味解釈を特定の構造と文脈に依存した非明示タイプであるのに対し，接置詞を用いることは，その反対の現象であると云えるからである。

ここでは，前節の流れを汲み，model2 から扱っていく。model2 は，その構造上，後ろに項を要する動詞が先行する必要がある。そして，多くの場合，その項は後続動詞の動作主体を表していると見ることができる。但し，そのような構造ではあっても，これまで明らかにしてきたように，項構造という点から見て，似て非なる構造と判断すべきものもある。それは，接置詞との関係からも見てとることができる，「島」のようなものである。

44） ･･･ PBT boleh **mengarahkan** pemaju <u>untuk</u> **berbuat** demikian ･･･.
団体名 できる 命じる 開発者 ～するよう する そのように
（地元当局側は，開発者にそのようにするよう命じた）
（Utusan Malaysia Online 2002/03/17）

45） ･･･ dan **mengarahkan** kami <u>supaya</u> tidak **bergerak**.
そして 命じる 我々 ～するよう（否）動く
（そして，我々に動かないように命じた） （Utusan Malaysia Online 2002/05/05）

46） Datuk Seri Abdullah Ahmad Badawi **menasihatkan** ibu bapa <u>supaya</u>
称号 人名 忠告する 母 父 ～するよう
mendapatkan panduan daripada Kementerian Pendidikan ･･･.
得る 指導 ～から 省庁 教育
（バダウィ氏は，父母に，文部省から指導をうけるよう忠告した）
（Utusan Malaysia Online 2002/03/12）

47） Kami sudah **memberitahu** AS bahawa kami tidak dapat **menyelesaikan**
我々 （過） 伝える 米国 ～いうこと 我々（否）できる 解決する
masalah ini sendirian.
問題 これ 自身で
（我々は，自分たち自身でこの問題を解決することができないと，アメリカに伝えた） （Utusan Malaysia Online 2002/01/17）

文例 44）から 46）は，動詞連続として前節で扱ったものの，後続動詞の前に接置詞がそれぞれ置かれているタイプである。一方，47）では，前章で述べたように，接置詞 bahawa がひとまとめの項を形成していることから，仮に AS のような伝達相手を示す項がなく，接置詞が用いられていないような例であっても，「島」のようなまとまりがあると主張し，動詞連続の構造とは見なさなかった。

本論に話を戻すと，これらの動詞連続の意味関係は，前節で「内容」としたものである。後続動詞をつなぐ接置詞は，動詞によって異なるが，いずれも関係を意味的に明示することは確かである。言語使用においてどのように明示・非明示のいずれが選択されるかは，ここではまだ結論が出せない。文例を見ても，先行動詞の要する項の長さというものだけで判断できるようなものでもないことがわかる。しかしながら，このような語序こそが関係を成立させているのであり，意味解釈において何ら遜色のない統語構造を生み出していると云える。

このタイプの動詞連続構造は，先行動詞の意味として，指示的なものが多いとは云えるが，それで全てをまとめられるわけでもない。以下のように，指示的ではない文例[26]もある。だが，いずれも項構造の延長のように，動詞が二つの項を要すると見ることもできるかもしれない。それに関しては，本節の最後で論じていく。

48） ･･･ ini tidak **menghalang** mereka daripada **belajar**.
これ（否） 妨げる 彼ら ～から 学ぶ
（このことは，彼らが学ぶことを妨げたりはしない）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/30）

model2 では，他に，行為として「同一性」を表している文例があった。文例 32）のように，行為という視点から同定できるものは多くないようである。同様の意味関係を持つ model1 ならばいくつか見られるが，それも往来に関する内容となっている。

49） ･･･ mungkin **dihantar balik** ke tanah air mereka ･･･.
おそらく 送られる 戻る ～へ 土地 水 彼ら

[26] 先行動詞は文例 48）のような「妨害」や，他に「許可」などもあるが，後続動詞の働きとしてはその「内容」としてまとめられる。

（きっと彼らの生まれ故郷に送り届けられるだろう）

（Utusan Malaysia Online 2002/01/27）

このような同一行為を表現する接置詞はなく，構造が動詞連続を保証している例であると云える。ここからは，model1 に関しての文例を追っていく。

まずは，本来的には model2 と同様，先行動詞が項を要するが，その項が後続動詞の後ろに来るタイプを見てみる。

50） Polis **menembak mati** empat perompak warga Indonesia ･･･.
警察　撃つ　死ぬ　4　泥棒　国籍 インドネシア
（警察は，インドネシア国籍の四人の窃盗犯を射殺した）

（Utusan Malaysia Online 2002/11/26）

51） ･･･ pelajar juga dibenar **membayar balik** pinjaman itu ･･･.
学生　～も 許可される　払う　戻る　借金　それ
（学生も，その借金を返済することを許可される）

（Utusan Malaysia Online 2002/05/18）

上の例 50）は，前節で意味関係を「結果」として示したものである。それぞれの動詞同士の意味関係を照らし合わせると，後続動詞には因果関係を含む「結果」というものが見える。一方，例 51）では，そのような因果関係は見られない。むしろ動詞個々の意味を追っていくと，正しい解釈から外れていく感さえある。ここでの連続は，密接な関係を持った「複合語」のようなものであると云え，二つで一つの概念を形成しているものと考えられる。あえてそれを動詞連続の意味関係にあてはめるならば，後続要素は「補助」的な意味合いを付加していると捉えられる。同様に，後続動詞 balik を用いた例をもう一つ挙げておく。

52） Apa yang kita usahakan menerusi mahkamah ialah untuk **mendapatkan balik**
何　我々　試みる　～を通して　裁判所 ～である ～こと 手に入れる　戻る
RM80 juta
百万
（裁判所を通して我々が試みたことは，八千万リンギットを取り戻すことである）

（Utusan Malaysia Online 2002/03/19）

上の例においても，動詞 balik は，本来の「戻る」という語彙的意味がそのままで用いられているとは考えられない。このような「複合語」的な動詞連続は，稀少というほどではないが，「往来」などの意味を持つ動詞を始め，語根の動詞が多いようである。また，上の「結果」も含め，その動詞連続の構造を基にすると，意味関係を明示する接置詞はないと云える。生産性という点からすると，接置詞を用いる構造がなく，動詞連続においてのみ表現すると考えたいところだが，実際は，連続構造でなく，二つの文として分けうる dan と

いう接置詞で文例 50）などは表現しうる。だが，上のような文例が自然な言語表現であること，そしてこのような語彙的な結びつきの強い傾向のものも動詞連続の中にはあるという点に着目しておきたい。

「同時性」を接置詞で語彙的に表現しようと思えば，マレーシア語には，sambil（～しながら）という語がある。以下のような用例がそれに相当する。

53） ･･･ Perdana Menteri <u>sambil</u> **ketawa berkata**, ･･･.
首相　～ながら　笑う　言う
（首相は笑いながら言った）　（Utusan Malaysia Online 2002/07/04）

ここで用いられているような用法が，以下の動詞連続構造によって表す「同時性」とは若干差異があると感じられるのは否めない。

54） Beliau sekeluarga kemudian **berlari keluar** ･･･.
その方　一家　その後　走る　外に出る
（その方とご一家は，その後で走って外に出ていった）
（Utusan Malaysia Online 2002/11/21）

この差異は，語彙の持つ意味の密接性，即ち，行為としての関係性に依存しているようである。動詞連続が生産的に示している意味関係は，直接それぞれの行為自体，つながりが強いのに対し，接置詞 sambil によって生産される意味関係は，本来別々に行うはずの行為をも結び付けられるものと云える。さらに，54）の文例において，sambil は用いることはできないと考えられる点から，それらの統語環境と意味関係が完全には等しいものではないということが明らかになる。

model1 の動詞連続の生産性において，経験的にもっとも頻度が高いと思われるものは，「目的」であろう。これは，接置詞を用いてさらに意味関係を明らかにすることもある。

55） ･･･ **datang** ke kampung itu <u>untuk</u> **menyaksikan** sendiri kemusnahan ･･･.
来る　～へ　村　それ　～ため　確認する　自身　荒廃
（自身で荒廃を確認するために，その村へやって来た）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/01）

56） ･･･ empat lelaki terbabit **pergi** ke dusun berkenaan <u>dan</u> telah **makan**
4　男　関係ある　行く　～へ　農園　当該の　そして（完）食べる
beberapa biji buah durian.
いくつか　種　実　ドリアン
（その四人の男らは，その農園へ行き，いくつかドリアンの実を食べた）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/14）

57） ･･･ Koizumi akan **berlepas** ke Bangkok, Thailand untuk **meneruskan**
人名 （未） 出発する ～へ バンコク タイ ～ため 続ける
lawatannya ･･･.
訪問―彼
（小泉総理は，訪問を続けるため，タイのバンコクへ向け出発した）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/11）

これらの文例は，先行動詞が項を要しないとされる「往来発着」を意味する動詞である。文例 55）では，「目的」を明示する接置詞 untuk が用いられているが，これがなくとも動詞連続は成立すると考えられる。一方，56）の場合，先行動詞からの時間的な連続性を含んだ，「結果」を後続動詞が表現しているが，これは動詞連続では表しがたい。テンスを示す叙述詞 telah がなくても，いわゆる「結果」を含意した動詞連続を形成することは難しいと云える[27]。57）は，55）と同様，動詞連続で表しうるものである。

このような「往来発着」を表す先行動詞には，model2 のように，後ろに項を要するものもあるが，それらの場合，「目的」を表す動詞連続はあまり見られないようである。

58） ･･･ Dr. Mahathir **melawat** negara itu bagi **mengukuhkan** lagi hubungan ･･･.
人名 訪れる 国 それ ～ため 強める もっと 関係
（マハティール首相は，関係を一層強固にするため，その国を訪れた）
（Utusan Malaysia Online 2002/03/05）

59） ･･･ beliau akan **mengunjungi** setiap kampung di Indera Kayangan untuk
その方（未） 訪れる 毎 村 ～で 地名 ～ため
bertemu rakyat ･･･.
会う 国民
（その方は，国民に会うため，インデラ・カヤンガンの村々を訪れるつもりだ）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/20）

上の文例はそれぞれ，先行動詞が行き先を項として必要とするタイプのものであるが，このような「目的」を表す文例を動詞連続で表すことはあまりないようである。その原因の一つには，他の model2 の動詞連続に見られるような，先行動詞の要する項が，客体であり，同時に後続動詞の主体となるというような統語的・意味的関係を築けないからだという点が挙げられるであろう。

先に進めて，後続動詞が「原因」を示す動詞連続構造を見ていく。この動詞連続は，被害的な意味合いの動詞に関してなどしか例は収集できていない。

---

[27] これと同じような意味解釈を行っているものに，Pitsamai（1987）があるが，そこでは，このような分析ではなく全てを先行動詞からの「連続」と捉えている先行研究として Nik Safiah(1978) *Bahasa Malaysia Syntax* を挙げ，批判している。本稿では，文脈に応じ「連続」と捉えることができるものがありうることは否定しないが，それ以外の多様な意味関係を支持する。

60） ‘Anak saya **mati dibunuh** bukan sandiwara’
子供　私　死ぬ　殺される　（否）　劇
（私の子供が劇ではなく本当に殺されて死んだ）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/09）

61） Tiga beradik perempuan **mati dijerut**, ･･･.
3　兄弟　女性　死ぬ 絞められる
（三人の姉妹が，首を絞められ死んだ）　（Utusan Malaysia Online 2002/03/02）

先行動詞はどちらも mati であるから，被害的な意味合いが自然と感じられるが，後続要素はその「原因」となった語が来る。このような後続動詞の意味関係を明示する接置詞には，kerana（なぜなら～から）などがあるが，そのような語を通常用いずとも表現できていると考えられる。つまり，本来的に動詞連続によって生産的に表現されるということである。

以上の考察より，次のようなことが云える。マレーシア語の動詞連続は，一部語彙的に制限される傾向がある構造もあるが，固まった遺物のような言語気質ではなく，現在においても生産的に用いられている言語表現である。その意味解釈を明示するために，接置詞も用いることができる場合もあり,それによってより言語表現法を豊かなものにしている。但し，動詞連続固有のニュアンスを持つ意味関係や，通常接置詞を用いることなく表現することを考慮すると，その統語的重要性が元来の言語気質にまで遡れる気がする。即ち，語の孤立性を活かした語序と意味結合によって成立する固有の言語表現だということである。

本節の最後として，接置詞による生産性は認めるものの，その用いられ方や項構造という点に関して，触れておく必要がある。以下に見る文例は，model2 に関するものであるが，要する項としての「揺れ」があるように感じられる[28]。

62） ･･･ dan **mengarahkan** semua orang **keluar** dari premis tersebut.
そして　命じる　全ての　人　外に出る ～から 建物 上記の
（そして，全員その建物から出るように命じた）
（Utusan Malaysia Online 2002/03/26）

63） ･･･ beliau telah **mengarahkan** kementeriannya <u>supaya</u> **mengkaji** semula ･･･.
その方（完）　命じる　省庁―彼　～するよう 研究する　再び
（その方は，内務省に，もう一度検討するよう命じた）
（Utusan Malaysia Online 2002/01/23）

[28] 検索をかけたコーパス，オンライン新聞記事の headline 一年分から，mengarahkan は 97 例採取できた。その内，動詞が直後に命じる相手を項としてとる例は 77 例あり，「内容」を直後においたものは，接置詞の有無に関わらず 20 例であった。また，menasihatkan は 91 例あり，直後に相手をとるものは 84 例（うち 2 例は接置詞 kepada つき），「内容」を直後におく例は 7 例であった。

上の二例を基準とし，文例 62）にせよ 63）にせよ，暫定的に，動詞は後ろに項として指示相手を要することを基本的とした。だが，以下の例では，先行動詞 mengarahkan の要する項は，上のものとの違いを見せている。

64） ･･･ dan **mengarahkan** pemilihan kepimpinannya **dibuat** ･･･.
そして　命じる　選挙　指導力―彼　される
（そして，代表者選挙を行うよう命じた）　（Utusan Malaysia Online 2002/03/21）

65） Beliau juga **mengarahkan** <u>supaya</u> pihak polis **menambah** kaunter ･･･
その方 ～も　命じる　～するよう 側　警察　増やす　カウンター
（その方は，警察側に対し，カウンターを増設するようにも命じた）
（Utusan Malaysia Online 2002/05/03）

上の二例では，先行動詞の要する項が先の文例とは異なっている。64）では，指示する相手ではなくなっているし，65）においては，相手が直後に現れない代わりに，接置詞の後続要素の一部として，後続動詞の主体が出現している。この文例 65）から考えると，本稿で動詞連続の対象外とした，動詞 memberitahu などと構造に違いはないように思われる。また，64）においても，そう捉えるならば先行動詞の項は，pemilihan 以下の「島」に相当するという説明は成り立つ。この見解を支持するためには，接置詞 supaya が形成する句なりが，項となることを認める必要がある。認めたならば，動詞連続 model2 の「内容」を示すものの一部は，動詞が項を二つとりうるタイプとし，動詞連続からは外れることとなる。また，supaya に限らず，他の接置詞に関しても同様の問題が浮上してくる。どのように解釈するにせよ，これ以上は，本稿の中心的な考察目標から逸れることとなるし，問題としても，文法記述の一部を担う大きな問題なので，上のような提言に留めておく。

3. 結論

3-1. 動詞連続のモデル化

これまで見てきたように，マレーシア語の動詞連続構造は，語序における時系列との関係やその動詞同士の意味関係という点で，一様でない特色を持っている。以下では，結論として，動詞連続の形式モデルとその意味関係を簡略的に定式化してまとめてみる。これまで model1・model2 としてきたものを，一つの形式で表し，そこにおける後続動詞と先行動詞との意味関係を示す。

Verb ― { **Arg.**} ― **Verb**

<u>意味関係</u>

同一性	同時性	結果	目的
並列・補助	状態	原因	
	内容		

動詞連続とは，動詞が明示的なつなぎ言葉を伴わずに二つ以上連続して現れ，特定の意味を表現する現象を指す。その際，先行動詞によっては，義務的に要する項が介在することもある。そのような場合の多くで，その項は，意味関係上先行動詞の客体であると同時に，後続動詞の主体となる。

「同一性」とは，先行動詞が表す意味が，後続動詞と同一の行為，及び直接連続的に一つにつながっている「一連」の動作の意味関係を表すものである。

「同時性」とは，二つの別々の行為が，時間的連続性を持ってその場で共に起こることを意味する動詞同士の関係を指すものを云う。

「結果」とは，先行動詞が原因となり，後続動詞の状態に至るという意味関係を表すものであるが，そのような時系列に沿った語序で因果を示す場合，接置詞 dan を用いて二文として表す[29]こともある。だが，文例 30）を始めとした例などは，一部「複合語」のように結びつきの強い動詞連続として表すのが，自然かつ適当であるとも見ることができる。

「目的」とは，後続動詞が，先行動詞の行為を行う目的となるという意味関係であり，生産性の高い動詞連続構造である。この構造をとるものには，先行動詞が項を要しないものが来ることが多いが，その理由の一つとして，その項が「内容」などと異なり，意味関係上後続動詞の主体と成りがたいことが多いからだという面が考えられる。

上に挙げたものは，比較的意味関係において連続性がある，即ち，曖昧な部分も生まれやすいものである。例えば，同一行為は必ず同時に行為が起こっているという意味を含んでいると考えられるし，時間的に連続して同時に起こるようなものは，時系列からして後続の動詞が意味するものが結果となる場合も文脈によっては否定しきれない。加えて，前章でも述べたように，動詞連続が等価な述語を連続したものと考えがたい理由として，テンスを表す叙述詞を挟めないからだということが挙げられるが，そうすると，時系列的な結果と後続動詞の行為を志向する先行動詞との意味関係もファジィになる部分がある。

意味関係の一段目に挙げたものは，意味は違えどもそれぞれ語序において，時系列に沿った順序となると考えられることも付言しておく。ここに見る語序のように，時間軸に沿った行為の羅列に関して，即ち，次々と起こる（もしくは起こす）行為を表す場合は，動詞連続という構造をとらないという点も確認しておく必要があろう。

66） Dia **datang** dekat saya, **menuding** jari, **memarahi** saya <u>dan</u> **menuduh** saya
彼 来る 近い 私 指す 指 怒る 私 そして 非難する 私
berbohong.
嘘をつく
（彼は私の傍へやって来て，指をさし，怒りをぶつけ，私を嘘つきだと非難した）
（Utusan Malaysia Online 2002/06/29）

[29] 等位を示す接置詞 dan で区切ることで二文としているだけで，そこでの階層性を意味するものではない。また，先行動詞が原因であることを明示するならば，接置詞 akibat，kerana などを用いることになる。

このように，「連続」して起こるイベントを表すには，動詞を連続させることはできるけれども，特定の意味関係を表すよう「動詞連続」として一つにまとまりを持って表現したりはしない。それらはただ並置され，接置詞を用いることや，イントネーションや間の置き方によって，羅列される構造をとるのである。

「並列・補助」とは，二つの動詞が連続することで新しい概念を形成し，「複合語」のようにそれぞれ個別の動詞の意味から離れたような意味関係を表すものを指す。「並列」には，主に対立する行為を表す動詞などが用いられたり，「補助」では後続動詞が付加的な意味合いを追加したりするような場合が多い。

「状態」とは，先行動詞の意味する行為の状態というよりは，むしろ主語となるものの状態を表しており，後続動詞の状態で先行動詞に至るという点での結びつきを持っているものである。但し，その場での「状態」という面からすると，「連続性」や「同時性」も窺えるような文例[30]もある。

「原因」とは，先行動詞に対し，後続動詞の表す行為が原因となるような意味関係を表すものである。比較的負の意味合いを持つ動詞の連続構造が見られるが，本稿での対象外の状態詞との関係を考えてみると，そうばかりではないかもしれない[31]。

これらの動詞連続は，接置詞を用いての表現とは対応しがたい。先の「目的」などは，生産性の高さもありながら，接置詞を用いての表現も用例は多い。一方，「並列・補助」は結びつきが強いものであることから考慮しないまでも，「状態」「原因」はそれぞれ表現しうる接置詞があるにも関わらず，これまで見た文例のように生産性を持っている。

先の一段目に対し，二段目の動詞連続は，意味に関係なく，語序が時系列と関係させにくい，もしくは時系列に逆らう順序となっている。

三段目となる，「内容」とは，二つの動詞間に項を挟み，先行動詞が持つ意味を補完する後続動詞の意味的な働きかけを表すものである。だが，「補う」という言葉の示す通り，その後続動詞を項のように扱い，先行動詞の要する二つ目の項と見なしうる分析も可能かもしれない。注目すべきは，本稿で云うような「島」を含んだ項構造と動詞の関係であろう。だが，これは，動詞連続だけでなく，文型などの大きな枠組みの文法記述とも関連する問題であるため，ここで一概に答えを出すことはできないと考える。よって，暫定的ではあるが，上の二段の動詞連続との違いを意識し，三段目としている。

これまでの考察より，マレーシア語の動詞連続は，接置詞を用いるような構造もありながらも，現在の言語使用において生産的に用いられている表現方法であることがわかる。それと同時に，接置詞との「共存」についても考えてみると，マレーシア語は語の孤立性の高い言語として，接置詞を用いずに表現しうる動詞連続構造を持ちながら，一方でその関係を明示化しうる接置詞もあると捉えられる。通時的な観点なくは語れないが，恐らく

---

[30] Pitsamai（1987）p. 162 の文例を参照すると，Anak itu duduk menangis seorang diri.の解釈が多義的とも見られる。そこでは，Nik Safiah（1978）に基づく「座って泣いた」という連続的行為と，著者自身による「泣きながら座っていた」という状態の二種の意味に分析が挙げられている。

[31] 文例として，Saya amat gembira berjumpa dengan awak.（私はあなたに会えてとても嬉しいです）を考えると，動詞 berjumpa は状態詞 gembira の状態になるための原因のようであると考えられる。

は，正確に対応すると考えられる接置詞使用のない動詞連続などの存在がある以上，動詞連続はマレーシア語元来の統語的な表現法ではないだろうか。ゆえに，「動詞連続」と「接置詞による明示化」とを，相互排他的であるべき「有標・無標」の対立という観点に収めて考えようとするのは妥当ではないだろう。本来的に，このような構造の基盤には，線形化された意味解釈可能な語序という規則があると考えるべきであると主張する。

最後に，動詞自体の働きというものに着目して考察を付け加えることにする。それは，動詞連続が構造として成立するのは，果して語序だけの問題であるのか，それとも動詞固有の特性とも云えるような働きによるものなのかという問題である。以下の文例に見るように，マレーシア語の動詞は，語形変化もせずに，様々な意味合いを含ませることがある。

67） ･･･, mangsa dikatakan **dipukul menggunakan** kayu oleh anggota polis ･･･.
犠牲者　言われる　殴られる　使う　木　～より　隊員　警察
（被害者は，警察官に警棒を使って殴られたと言われている）
（Utusan Malaysia Online 2002/06/06）

68） **Menjawab** pertanyaan beliau memberitahu, ･･･.
答える　質問　その方　伝える
（質問に答え，その方は･･･と伝えた）　（Utusan Malaysia Online 2002/01/20）

上の例 67）では，一見動詞連続とまるで同じ様相を示している。むしろ，「手段」を表す動詞連続と見なしても良いくらいである。だが，この後続動詞 menggunakan の句は，場合によってはこの連続構造を離れて前置することもある[32]。それは，文例 68）のように，動詞が何の接置詞も用いずに，そのつなぎの意味合いを含意し，他と結びつくという構造と同じであると考えられる。よって，文例 67）のようなタイプについては，本稿では一応動詞連続から外している。

ここでの問題に戻ると，動詞固有の特性とは何かという点に全てが収斂されるようである。即ち，動詞が特性としてそのような意味を持ちうるとするならば，動詞連続も，後続動詞の特性の具現であると捉えられるだろう。だが，本稿ではその立場を支持しない。ソシュールの連辞関係においても強調されたように[33]，統語関係は言表されたものにおける差異から生まれるのであって，記号としての言語形式そのものが生来何らかの機能を有しているのではない[34]と考える。それは，言語形式として用いられる中で関係を持ち，意味を表すのであって，ある語の固有特性とは考えられない。つまりは，動詞が文例 67）や 68）のような働きをしうるのは，そのような統語的位置にあり意味解釈が可能となるからであり，動詞連続においても，線形化された中での連続が，他の統語状況との差異を産みだし，

[32] おそらくは，音声で認識する際には，間やイントネーションの異なりも感じることであろう。

[33] 丸山（1981）より，連辞関係について引用「話された（または書かれた）言葉は，時間的（または空間的）に線状の性質をもっており，その発話内に現われた個々の要素は，他の要素との対比関係におかれてはじめて差異化され意味をもつ。」p. 98

[34] 語の「品詞」についても，それは学者が「創り出す分類」であるという考え方が共通している。

動詞連続たりえるものとしていると考える。

まとめとして，動詞連続は広義の「修飾」であるとも云える。だが，そのように考えた場合，修飾語に対する被修飾語，つまり主要部はどの動詞になるのかという問題がある。テンス形式などの付加可否から一部判断する方法もあるかもしれないが，それを認めても，他の状態詞や名詞の修飾構造に比べれば，そこには多様な意味関係があると見られる。このことより，動詞連続を一つの構造として捉え，分析・一般化することは，言語現象の把握と文法記述の両面において有意義であると考えられる。

3-2. 今後の課題

マレーシア語の動詞連続が生産的である以上，コーパスを「会話体」にまで広げると，さらなる拡張が見られる可能性がある。本研究は，主に文語をコーパスとしており，先の研究としては，より広いコーパスにあたりながら網羅的に分析・総合を行う必要があると考えられる。また，本稿で扱わなかった，叙述詞や状態詞と動詞の関係についても，動詞連続とはやや異なる観点となっても，検討していくべきであろう。

項構造に関しては，動詞が要する項というものの確定が可能であるか，そして，その義務的な項の形態上の規定なども含め，前章などで問題とした接置詞と絡めて，諸問題に対する考察をすすめなければならない。最終的に，それは文法記述の根本原理まで遡る問題であると考えている。記述の対象を定めることで，文型などの考察も，ようやく視野に入ってくることになるはずである。

参考文献

Daud Baharum (1996). *Intelek Malay-English Dictionary*, Arus Intelek Sdn. Bhd.

デ・マウロ，トゥリオ（1976）.『「ソシュール一般言語学講義」校注』. 訳山内貴美夫，而立書房

フンボルト，ヴィルヘルム・フォン（1984）.『言語と精神―カヴィ語研究序説』. 訳亀山健吉，法政大学出版局

亀井孝・河野六郎・千野栄一（編著）（1996）.『言語学大辞典』第 6 巻術語編，三省堂

河野六郎（1980）.『河野六郎著作集 3』，平凡社

丸山圭三郎（1981）.『ソシュールの思想』，岩波書店

Md. Isa bin Hassan (1993). *Frasa Kata Kerja dalam Bahasa Melayu*, Dewan Bahasa dan Pustaka

峰岸真琴（1986）.「クメール語の動詞連続における/baan/の意義について」『東京大学言語学論集'86』，東京大学文学部言語学研究室　＊Web 版を参照している

――――――（2002）.「言語の構造性をめぐって―非階層的アプローチ」『アジア・アフリカ文法研究』，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

――――――（2003）.「動詞連続の言語理論上の意義」，中国語東アジア諸語研究会　青山学院大学 5 月 18 日発表レジュメ

Nik Safiah Karim (1995). *Malay Grammar for Academics and Professionals*, Dewan Bahasa dan

Pustaka
Pitsamai Intarachat (1987). *Sintaksis Predikat dalam Bahasa Malaysia*, Dewan Bahasa dan Pustaka
Ross, John Robert (1985). *Infinite Syntax!*, ABLEX publishing corporation
正保勇（1994）.「マレーシア語の述語補文」『東京外国語大学論集』48，東京外国語大学
――――――（1996）.「補文を取る動詞の類型」『言語研究』Ⅵ，東京外国語大学
――――――（1997）.「マレー語の準動詞が作る構文」『言語研究』Ⅶ，東京外国語大学
――――――（2004）.「マレーシア語の COD 構文」『言語情報学研究報告』3，東京外国語大学大学院地域文化研究科
Tai, James H・Y (1985). “Temporal Sequence and Chinese word order”, in *Iconicity in Syntax* James Haiman ed., J. Benjamins
鵜沢洋志（2003）.『マレーシア語の品詞分類』，東京外国語大学　修士論文
――――――（2004）a.「マレーシア語の主語に関する一考察」『言語・地域文化研究』10，東京外国語大学大学院地域文化研究科
――――――（2004）b.「マレーシア語の状態詞に関する諸問題」『言語情報学研究報告』3，東京外国語大学大学院地域文化研究科
吉田一彦（2002）.『いわゆる「ガ格」表示に関する研究』，東京外国語大学　博士論文